

集中治療部

大きな手術、緊急心臓カテーテル後や重症な疾患で集中的治療や看護を必要とする全診療科の患者さんが入室します。人工心肺装置など多くの医療機器に囲まれた環境ではありますが、早期回復を目標に、患者さんにとっての安全・安心・安楽を常に心がけ、看護に取り組んでいます。また、不安の大きいご家族に寄り添えるように努めています。

高度な専門知識と高い専門技術が要求される部署のため、日頃からシミュレーションや心肺蘇生法の練習、学習会を行い救命に必要な知識や技術を習得しています。



HCU

HCUでは、救急搬送や手術後の患者さん、集中治療を終え一般病床に移る前段階の患者さんが入室しています。慣れない環境で治療を受ける患者さんの不安を最小限にできるよう丁寧に対応しています。

HCUには、全診療科の患者さんが入室し重症度もさまざまです。そのため、日頃からシミュレーション、医師を交えての学習会などを行い、自己研鑽に努めています。

また、部署全体で教育に取り組むことで後輩支援を強化しています。

緊張感はありつつ、アットホームな雰囲気づくりをして患者さんに接しています。





3東病棟

循環器内科病棟：**地方循環器病センター**として24時間心疾患の患者様を受け入れています。



病床数:32床
患者様の平均年齢:約79歳

【病棟スタッフ】

- ・循環器医師:9名
- ・看護師:看護師長1名、副看護師長2名含め26名
- ・看護補助者:4名

入院患者様の主な疾患

- ・心筋梗塞
- ・狭心症
- ・心不全
- ・不整脈

日々の心臓のモニタリングをしながら清潔や排泄などのニーズが充足できるような看護を行っています。

安静が解除され自身で動けるところを間近で見ると看護師も喜びを感じられます。



看護カンファレンス

患者様の生活は、入院中だけでなく退院後も続きます。退院後も再発がないように生活指導や服薬指導など様々なことが必要です。医師や看護師だけでなく、薬剤師による服薬指導や栄養士による栄養指導、理学療法士、ソーシャルワーカーなど様々な職種が話し合い入院から退院後までサポートしていきます。

当院は心不全認定看護師も在籍しています。患者様が病気と付き合いながらより良い入院生活、退院後の生活ができるようにサポートをしてくれています。



3 西病棟

心臓血管外科、循環器内科、泌尿器科の混合病棟です。手術検査・治療前後の急性期看護の他、日常生活支援も丁寧に提供しています。

明るく働きやすい職場で、例年多くの就職希望者を仲間にご案内しています。



5東病棟

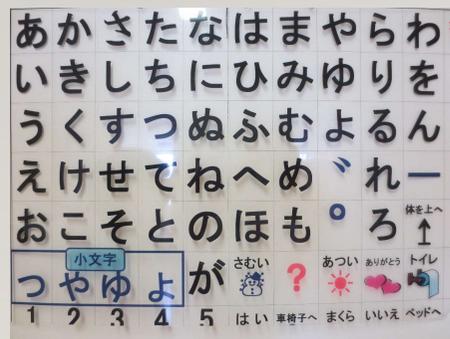


5 東病棟は脳神経外科・歯科・口腔外科・眼科・放射線科・内科の混合病棟です。入退院や担当科が多い病棟ですがスタッフ一同協力して看護をしています！
患者さんとの関わりを通して様々なことを学び・日々の看護に活かしています★



5 西病棟

- 脳神経内科 42床
- 神経難病の患者が入院されている病棟です。日常生活に介助が必要な方、言語的コミュニケーションが取れない方が多く、個々に合わせたケアを行っています。医師、リハビリや社会福祉士等の多職種と連携し、患者・家族にとってより良い医療が提供できるようにしています。



文字盤



看護師が患者の目線を読み取りながら、コミュニケーションします。



ナースコール

患者の僅かに動かせる部位にナースコールを設置し、少しの力でも押せるように工夫します。



リハビリと協力し、スマートベストを使用し、排痰の援助を行い、肺炎予防に努めています。





6東病棟 (2交代：3人夜勤)

- 6東病棟は外科病棟です。消化器外科疾患が主ですが、気胸や乳がんの手術目的で入院される方だけでなく、検査目的や化学療法・疼痛コントロール、終末期の患者さんが入院しています。
また、当病棟には「がん性疼痛看護認定看護師」が副看護師長として在籍しており、患者さんの症状や状態だけでなく、本人・家族の思いを聞きながら、緩和ケアを行っています。
- ストマケアでは、プライマリー看護師が「皮膚排泄認定看護師」と協力し、退院後の生活を考えながらセルフケア確立に向け支援しています。
- 高齢な患者さんも増えてきているため、必要時は認知症チームへ依頼するなど、個々の患者さんに合わせた看護ができるよう、病棟全体で協力しています。

6 西病棟(50床)

一般内科・消化器内科・膠原病内科・糖尿病内科・呼吸器内科・皮膚科の患者さんが入院しています。

消化器内科は主に胆・肝・膵疾患の内視鏡治療される方が多く、がん患者さんの化学療法や放射線療法も行っています。

一般内科では肺炎や COPD・リウマチなどの疾患の薬物治療を行っています。皮膚科は带状疱疹・蜂窩織炎などの治療を行っています。



入院患者の高齢化に伴い安全面の配慮をし、入院時から退院を見据えた看護介入が行えるよう心がけています。また、看護の質の向上を図るため、積極的に多職種とのカンファレンスや看護カンファレンスを行っています。

一人一人の患者さんに寄り添えるよう、丁寧なコミュニケーションや対応を心がけています。

看護師長・副看護師長をはじめ、とても明るい雰囲気
の病棟です。



7東病棟（50床）

7東病棟は整形外科の疾患を持つ患者さんが入院しています。

主な疾患・治療は変形性の膝や股関節の手術、転倒や事故などによる骨折で手術を行う患者さんなどが入院しています。手術や検査がスムーズに受けられるように、不安や痛みが最小限となるよう看護を行っていきます。高齢者の入院患者さんも多く、理学療法士やケアチームなどさまざまな職種と協力し、患者さんの入院生活への援助を実施しています。



7西病棟

- ・診療科:感染症病棟(主にCOVID-19)
- ・病棟の雰囲気:COVID-19流行に伴い開設された病棟です。主にCOVID-19患者を受け入れています。院内の感染対策に沿って患者対応しています。患者さんからは顔が見えにくく、怖いと感じる可能性があるため、丁寧な声掛けを行い安心した入院生活を送れるようにスタッフ一同心がけています。



さくら病棟

病床数:58床 診療科:療育指導科

さくら病棟は重症心身障がい児(者)病棟です。医師2名、看護師・准看護師38名、療養介助専門員8名、児童指導員2名、保育士6名など多職種連携のもと安全で安楽な空間を作り、少しでも楽しい生活が送れるように支援しています。

また、生活の質を高め季節を感じられるように、夏祭りやクリスマス会などを開催しています。利用者様が、充実した生活が過ごせるように、スタッフ一同で生活を支えています。



手術室

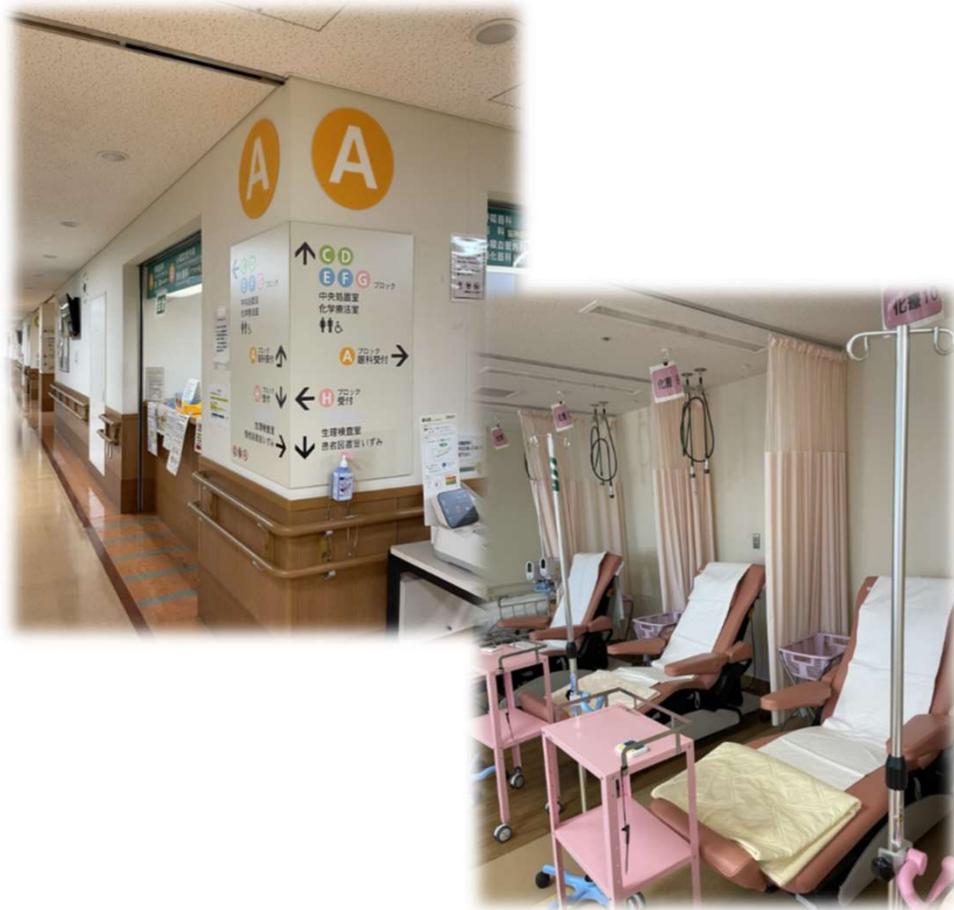
当手術室は、外科・心臓血管外科・脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・整形外科・眼科・形成外科・口腔外科の手術が行われています。他院から多くの合併症を有する手術対象患者の紹介も多く、中には極めてリスクの高い症例もあります。2025年2月から**低侵襲支援手術ロボット（ダヴィンチ）**を導入し、より精密になった手術操作によって**術後合併症の低減**が期待されています。このような状況の中で、手術室看護師には高度な専門性を有した知識・技術に加え、観察力と判断力が求められています。一人ひとりの看護師が手術室看護師としての責任と自覚を高め、自己の能力を十分に発揮できること、医師や他職種を含むチーム内で、看護師としての役割を認識した行動をとっています。患者の**安全**を常に念頭に置き、手術患者さんの環境を整え、**個別性**を考慮したサービスが提供できるよう、**チーム一丸**となり努力しています。



外来

外来は24の診療科と処置室、化学療法室、内視鏡室、救急外来で構成されています。スタッフは病院の「顔」という自覚を持ち、患者様が安心して外来診療を受けられるように心がけています。

また、医療の動向として地域包括ケアが重要視されています。外来を受診した時から、入院生活や退院後の生活を見据えた在宅支援を視野に入れ、医療と介護の両面から支援できるよう、様々な職種と連携しています。



救急、内視鏡、化学療法のように、専門性の高い看護領域にも力を入れています。

患者様の安全を保障し、患者様とご家族から信頼される看護を目指しています。

入院支援



入院が決定した患者さんへ入院前の面談を行っています。

面談では、看護師が入院生活について説明する他、身体面や生活面などについてお伺いし、患者さんの心配事を共有することで、安心して入院生活を送れるよう支援しています。

地域医療連携室

構成職種

医師、事務職員、社会福祉士、看護師の多職種で構成されています。

医療相談について

地域医療連携室では、社会福祉士と看護師が協力し患者さまの医療相談に対応しています。

患者さまによっては、急性期治療終了後、退院後の生活に不安をもつ方もいらっしゃいます。そのような患者さま・ご家族の思いを受け止め、院内外の多職種と連携し、患者さまにとって良い支援の実現に向け取り組んでいます。



地域医療連携室の入り口です



医療安全管理室

患者の安全を最優先に考え、「安全文化」を醸成させる部署です。

当院の医療安全管理指針は地域連携室前でご覧いただけます

医療安全管理室長・医療安全看護師長・副看護師長の3人で主に下記役割を担っています。

具体的活動・業務として

- 1.インシデント事例の把握・要因分析、改善策の検討・実施等により安全対策の強化を図っています。
- 2.定期的な院内ラウンドを実施し、現場教育に努めています。
- 3.広報や定期的な研修を通して、職員の医療安全意識の向上・安全文化の醸成を目指しています。特に重大な医療事故が発生した場合は、「医療事故調査委員会」を設置し検討を行います